

## 第2節 修景に関する基本方針

来訪者が縄文時代の景観と人々の暮らしを体感できるよう、修景を進めるとともに見学時の安全・安心に配慮した整備を図ります。

### 1 植栽管理

- ・自然環境の現状把握を定期的に行いながら、適切な植栽管理を実施していきます。管理は保存活用計画で示した下表の方針に基づき、計画区域を設定して行い、各区域の目標植生への遷移を目指します。
- ・大木化した樹木は、地下の遺構等に悪影響を与えるだけでなく、防犯上、問題となる場合があります。これらの樹木は公園利用者の理解を得ながら、計画的に減らし、来訪者の安全・安心な利用環境を維持していきます。

表 2-2-1 保存活用計画における目標植生区分案

計画区域	区域説明	現況	目標植生
①保全植生域	現存植生の保全を主としながら、必要に応じて間伐や補植を行い、目標植生への遷移を促す地域。	斜面緑地林	シイ・カシ・ケヤキ等斜面林
		草地	草地保全、シラカシ・コナラ等点在
		クヌギ・コナラ二次林	クヌギ・コナラ二次林として保全し、ゆくゆくはシイ・カシ林に遷移
②復元植生	現況土地利用に関わらず潜在的な土地条件により目標植生の達成を図る地域。	クヌギ・コナラ等落葉樹林	シイ・カシ林に遷移させて保全
		畑地その他	シイ・カシ林及び二次林
		谷地・水田	ハンノキ・ヤナギ類等の水辺林など
③人為植生	施設等に伴う特殊な植栽部分。樹種は郷土樹種に限らず、目的に応じて選択する。	—	施設周りの修景植栽
		—	周辺目隠しや、フェンスとしての遮断植栽



図 2-2-1 目標植生区分